

国文学科の3つのポリシー

教育研究上の目的

国文学科では、大学の目的（学則第1条）、文学部の教育研究上の目的（同第3条の2）に加えて、以下の目的（同第3条の2）を定めています。

日本文化の中核を成す国語と国文学を教育・研究することにより、豊かな感受性、柔軟な思考力、的確な表現力を身につけ、日本文化の担い手としての自覚を有しつつ、現代社会の諸課題にも積極的に対処し得る自立した人間を育成する。

ディプロマ・ポリシー

国文学科では、大学全体（学部全体）の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に加えて、以下の方針を定めています。

1. 国語と国文学及びその関連分野の基礎的な知識をもち、説明することができる。
2. 文学作品及び関連する資料を読解することができる。
3. 国語と国文学及びその関連分野において、自ら課題を発見しそれを調査・考察し、論理的に表現することができる。
4. 書道、漢文学や図書館学に関する知識を有し、その技術を使うことができる。
5. 国語と国文学及びその関連分野の学修を通じて、人間の営みと日本の文化に対する関心をもち、地域や現代社会の諸課題にも対処しようとする意欲を有している。

カリキュラム・ポリシー

国文学科では、大学全体（学部全体）の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に加えて、以下の方針を定めています。

【1】教育内容については、次のとおり定める。

1. 専門科目に関して1年次（1・2 Semester）を基礎、2年次（3・4 Semester）を発展、3年次（5・6 Semester）を応用、4年次（7・8 Semester）を展開と位置づけ、段階的かつ有機的な学修を展開する。
2. 国文学（古典文学・近代文学）、国語学、漢文学、書道、図書館学の各分野に科目を設置し、幅広い学力を身につけることができるようにする。さらに、履修モデルとして「国語学・国文学コース」「国語教育コース（中高教員）」「書道・漢文学コース」「図書館司書コース」を設置する。
3. 各分野の概要を述べる概論的科目は、国語・国文学に関する基礎的かつ体系的な知識を、具体的な作品読解力の進展に応じて修得できるようにするために、1～4 Semesterに分散して配置する。
4. 2・3 Semesterに文献読解の技術を学ぶ講読科目、4・5 Semesterに研究の対象に関する知識と方法を学ぶ講義科目、5～8 Semesterに研究を実践する演習科目を段階的に設置する。
5. 大学における学修の集大成としての卒業論文作成を課す。自ら課題を発見して、それについての調査・考察を行い、論理的な文章としてまとめることができるように指導を行う。

【2】教育方法については、次のとおり定める。

1. 大学全体の方針に沿い、講義形式の他、アクティブ・ラーニング（学生の能動的な学修への参加を取り入れた学修方法）やPBL（「課題解決型学修」「問題解決型学修」）も取り入れた教育方法も実施する。
2. 個別の科目では、大学全体の方針に沿って評価する。卒業論文においては「卒業論文の評価基準」（国文学科）に則って客観的に評価する。
3. 国語・書道の中学校・高等学校教員や図書館司書・司書教諭の資格取得に必要な科目を、適宜国文学科の専門科目として配置し、その分野の専門職業人としての実践に役立つ指導を行う。

アドミッション・ポリシー

国文学科では、大学全体（学部全体）の入学受入れの方針（アドミッション・ポリシー）に加えて、以下の方針を定めています。

1. 日本のことばと文学に対して興味をもち、それを学ぼうとする強い意欲を有している。
2. 自らの考えを日本語でわかりやすく表現することができる。
3. 国文学を学ぶ上で基本となる教科「国語」のうち、「国語総合」「現代文」「古典」の科目を履修、もしくは同等の学力を有している。